

理科(物理・化学・生物・地学) 京都大学 (前期)

<全体分析>

試験時間 90 分

解答形式

記述・論述・描図・選択・マーク

分量・難易 (前年比較)

分量 (減少・やや減少・変化なし・やや増加・増加)

難易 (易化・やや易化・変化なし・やや難化・難化)

出題の特徴

難易度は昨年と同じく高く、分量が大幅に増加したので時間内に全問を解答することは至難である。

その他トピックス (入試改革の方向性を踏まえた目新しい出題など)

特になし。

<大問分析>

番号	出題形式	出題分野・テーマ	範囲	コメント (設問内容・答案作成上のポイントなど)	難易度
I	空所補充 ・問形式 (記述・ 描図)	力学 (単振動・ 衝突)	物理	設問キでは小球1の速度が最小値をとるのは小球1にはたらく合力が0になるときであることに気づく必要がある。(2)の前半の糸のたるみがなくなる前後の状況は弾性衝突と同等であることに注意しよう。	難
II	空所補充 ・問形式 (記述・ 描図)	電磁気 (コイル、コ ンデンサー、 ダイオードを 含む回路)	物理	各回路素子の電流と電圧の関係を正しく把握し、キルヒホッフの法則の式を立式すること。題意に沿って計算をすすめていくこと。	やや難
III	空所補充 ・問形式 (記述)	熱 (気体分子 運動)	物理	設問の答の式中に現れる $v \pm w$ は v 、 v' は v と考えて近似計算を進めていかないと時間内に答えることはできない。 問1は式を立てるだけで精一杯であろう。	難

※難易度は5段階「易・やや易・標準・やや難・難」で、当該大学の全統模試入試ランキングを基準として判断しています。

<学習対策>

1. 基本事項を正確に把握する。
2. 題意を正しく把握するための読解力を養う。
3. 図を用いて状況設定を正しく把握する習慣を身につける。
4. 正確で迅速な計算力を養う。